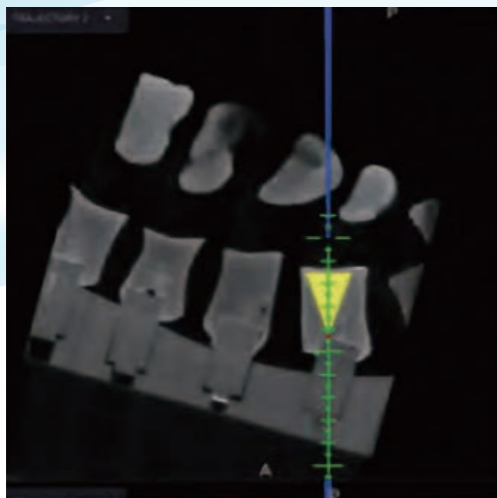
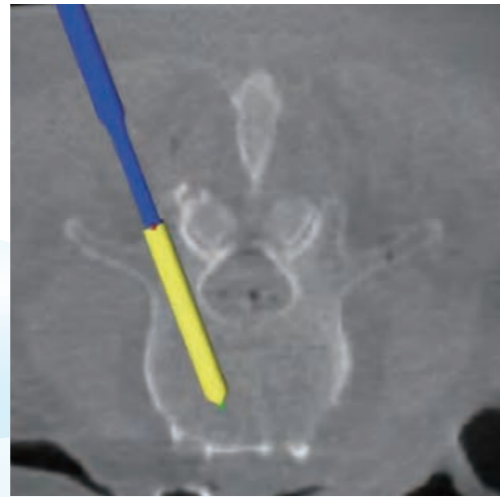
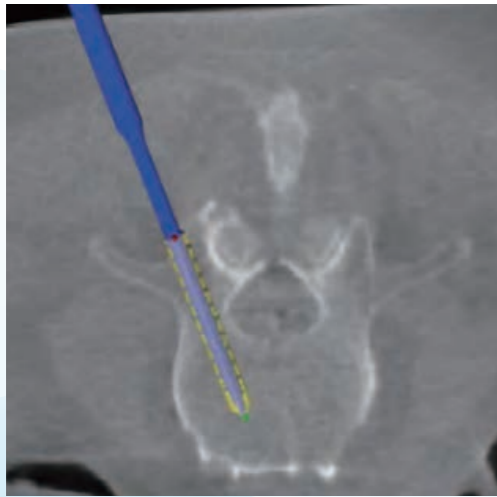


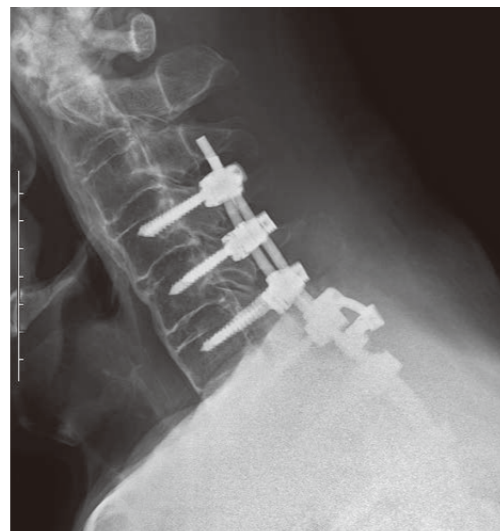
ナビゲーション装置画面

インストゥルメント先端から仮想線を表示し、リアルタイムに方向を確認しながらスクリューの挿入が可能



頸椎骨折術後のレントゲン画像

下記のような難しい手術においてもO-armを使用することで比較的安全に行うことが可能



様々な脊髄疾患の手術に対応できる術中支援装置

脊髄脊髄外科部長
くすめぎ あきら
久壽米木 亮
宮崎大学医学部卒業
免許資格
●日本脳神経外科学会専門医
●日本脊髄外科学会認定医
所属学会
●日本脳神経外科学会
●脊髄外科学会



福岡県で2台目

オーアーム

O-armを導入

脊髄脊髄外科



Medtronic社製 O-arm

ナビゲーション装置

O-armを導入しました

新小文字病院では、福岡県で2台目となる術中支援装置O-armを導入しました。

O-armとは、アルファベットの「O」の形をした、手術中に撮影できる可動式の画像撮影装置です。短時間で高精細画像を取得することができ、2Dだけでなく3D画像も撮影することができ、病変を3次的に把握することができます。

より安全に、正確な手術を

当科では脊髄管狭窄症や椎間板ヘルニアなどの変性疾患、骨折や脊髄損傷などの外傷性疾患、骨粗鬆症性椎体骨折、脊髄腫瘍などの様々な疾患に対して手術を行います。そのうちの約25%が椎骨にスクリューを挿入するインストゥルメンテーション手術です。脊髄には非常に重要な神経や血管が存在するため、スクリュー挿入時にはこれらを損

傷しないように細心の注意を払います。これまで私たちは従来の透視装置を用いて、安全で正確な手術を行ってきましたが、頭蓋頸椎移行部や頸椎移行部などの特殊な手術においては従来の2D画像では視認性が低く、治療に難渋することもありました。

しかし今回導入したO-armによって撮像された3D画像はナビゲーションシステムと連動させることで、病変を3方向からリアルタイムにモニタリングすることができ、ため、今まで難しかった症例においても安全で正確な手術が可能になります。

今後の発展

O-armとナビゲーションシステムを使用することで、リスクが高く難しい手術方法も比較的に行うことが可能になり、これまで治療が難しかった症例に対しても手術を行うことができる可能性があります。

私たちも日々技術を磨き、脊髄脊髄外科手術の更なる発展を目指したいと思います。